

ロシア 東欧 経済速報

(社)ロシア東欧貿易会

2002年(平成14年)10月5日 No.1240

目次

カザフスタンにおける外資参加企業の活動状況	1
エトセトラ	5
メンバーズ・ブリーフ「ロシア石油・ガス分野への視座」 / 5	
モスクワ・メルマガ発行のお知らせ / 5	
新刊『ロシア経済10年の軌跡』 / 5	
トルクメニスタンに関する便利なニュースサイト / 5	
ロシア東欧貿易会関連の行事予定	6
CIS・中東欧諸国通貨の為替レート	6

カザフスタンにおける外資参加企業の活動状況

はじめに

CIS統計委員会の発行する『CIS統計通報』(2002, No.13)に、カザフスタンにおける外資参加企業(合併企業および100%外資企業)の最新の活動状況に関するレポートが掲載されているので、今回の速報ではその抜粋をお送りする。

この資料によれば、カザフスタンでは外資参加企業の増加が続いており、2001年には3,995件に達した。経済における役割はますます拡大しており、2001年には同国で生産された財・サービスの実に53%が外資企業によるものだった。

ただ、このようにカザフスタン経済において外資企業の役割が高まるなかで、日本の影が薄いのは少々気になるところである。統計が現実をどれだけ捕捉しきれているかは不明だが、第1表に日本は登場しない。このデータを信頼する限り、カザフスタンにおける日本企業の現地法人設立数は10件以下で、一連のライバル国に大きく水を開けられていることになる。日本企業の取り組みが大規模資源開発や支援事業に偏重し、ややフットワークが重くなってしまっている感は否めない。

なお、現地通貨テンゲの2001年末時点での為替レートは、1ドル=150.2テンゲであった。